

2020年度 米子北斗中学校・高等学校 学校自己評価表【分掌・教科・学年】

学校ビジョン	次世代リーダーの育成
○『学力の伸長』 ・難関大学, 医歯薬系大学の合格 ・体系的カリキュラム	
○『主体的行動力の育成』 ・探究学習の推進 ・プレゼンテーション力向上	
○『協調性を高める』 ・異文化, 多様性の理解 ・いじめのない学校	

校 訓
自学自律
本年度の学校目標
個々を伸ばす 6+α

【評価基準】 達成目標に対する達成状況を数値化(割合)し、100%~80%⇒A 80%~60%⇒B 60%~40%⇒C 40%~20%⇒D 20%~0%⇒E とする

【分掌】

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
総務部	PTA活動は役員と連携が取れており、問題はない。本来の学校総務としての活動ができていない。	■各分掌・学年の活動をサポートし、それぞれが充実した教育活動に望めるように協力する。	■各学年の探究学習において、外部講師派遣や、研修旅行の外部折衝など、学年団の補助を行う。 ■総務部員が他の分掌の補助人員として、各分掌活動への協力を進めていく。	■中学2年と中学1年の探究学習において、SDGsをテーマにしたオンライン授業を企画・運営することができた。しかし、多くの学年や分掌で教育活動が制限されているのでまだ、サポートは不十分な状況である。	C	■探究学習に向けた各学年の活動に積極的にサポートしていく。 ■総務部員が他の分掌の補助人員として、各分掌活動への協力を進めていく。	■新型コロナウイルスの影響で学年の行事や学校の教育活動は減少したが、SDGsに関する授業支援や探究学習のサポートなどで学年の教育活動のサポートができた。	A	学校総務として、引き続き各学年の活動サポートに取り組んでいかなければならない。また、学校外の機関等との連携を深めていく。
教務部	自学自律は学力が主軸であることを強く意識し、授業改革、学力強化を継続していく必要がある。	■授業改善により、学力強化につながる学習活動を活性化させる教務活動を実践する。(校外外の調査・模試・学力調査、進路結果等により検証する。)	■授業改善の方法として、PDCAサイクルを学習指導に取り入れる。学習活動(教科・行事にも)に評価(ルーブリック)を作成して、生徒へフィードバックしていく。 ■e-ポートフォリオにつなげるために、各種の学習・活動の振り返り指導をおこなっていく。	■コロナ禍の中で、授業改善の取り組みをeラーニングを取り入れるように研究・検討している。ICT(ブレンドやムードル等)を活用していくことで、調査・分析し、より早い対応ができるようにした。	B	■遠隔授業も含め、普段の授業にICTを効率よく活用し、PDCAサイクルにも取り組んでいく。 ■各種の学習活動にブレンドの機能を活用して、振り返り指導等の効率を上げる。	■ICTを授業に活用して学力強化につながるための教員研修会(ICTを授業に活用)を実施した。教務活動にもクラウドを活用した。さらに校務活動全般の活性化を促した。	B	ICTを授業等にさらに活用するため、ICT支援員の導入や一人一台の端末機器の充実が必要である。
進路指導部	中学生の進路意識、関心の向上がまだまだ不十分であり、高校での進路目標決定の遅れにつながっている。	■要望に見合った進路情報の提供と、キャリア教育の充実に努め、中学生の進路意識高揚を促す。	■大学・予備校・模試会社等の説明会、分析会等に積極的に参加し、情報収集に努める。適切な機会に適切な情報を提供する。 ■講演会、説明会、懇話会等を企画し、総合学習の進路探求に役立つ情報提供に努める。	■コロナ禍の為、大学入試センター説明会の中止に加え、地元大学の進学説明会、模試会社の分析会等が一部WEB開催となったが、適宜情報収集できている。 高3の面接セミナーは大阪からの講師招聘の為中止とした。	B	■共通テスト前の分析会等に積極的に参加し、適確な情報提供に努める。 ■模試会社の担当者に時機に見合った情報収集・取りまとめを適宜依頼し、タイムリーな情報提供に努める。	■共通テスト前、共通テストリサーチ等の分析会はすべてWEB開催となり、制約されたが、模試会社の担当者等から情報収集し、適宜提供できた。コロナ禍の為、講演会、説明会等の開催は見送った。	B	コロナ収束の目途も立たない為、講演会、説明会等のWEB開催を検討する
生活指導部	問題行動の件数は少ない。また、遅刻者指導の対象となる生徒も少ない。	■他者に対する関心と敬意を抱くことで、道徳心を育てる。(倫理観の育成)	■教員による「さわやか挨拶運動」を実施する。 ■朝終礼において担任から挨拶の意義を説く。	■教員に対して「さわやか挨拶運動」に関するアンケート調査を実施。「教員がさわやかな挨拶を実行できているか」という5段階の自己評価で、4または5の評価をつけたのは回答者のうち、55%だった。	C	■アンケートの実施回数を増やし、教員の挨拶に対する意識を高める。 ■	■「先ず隗より始めよ」生徒の道徳心を育てる第一歩として教員が生徒の模範となる「さわやかな挨拶」を実施した。少しずつ生徒の態度が向上しつつある。	B	教員の挨拶がさわやかであることを前提として、次年度は生徒たちにも自らの挨拶について振り返り及び改善を求めていく。
保健管理部	保健室の利用状況は改善されてきた。	■保健室利用規定を徹底し、生徒の健康管理に努める。感染症が拡大しないよう努める。	■保健室利用規定を春のホームルームで確認する。 ■コロナ関連の情報を収集し、校内でする対策をとる。(アルコール消毒の設置、換気など)	■保健室利用者は減っている。また、各教室、各階にアルコールの設置ができた。非接触型の体温計も揃えることができた。	B	■悩みを抱える生徒に関してはSC・SSWと連携を取りながら対応をしていく。 ■引き続き校内のアルコール消毒を行うこと、うがい・手洗い換気の徹底を行い、インフルエンザを含めて感染症の予防に努める。	■SC・SSWと連携をとりながら生徒の対応ができた。感染症予防の意識づけはでき、発熱や感染症での欠席者は減少傾向だが、教室内のアルコール消毒や換気の徹底ができなかった。	B	感染症予防の徹底が必要。教室空気清浄機やサーモス体温計などの備品の購入も検討する必要がある。ドアノブや机・椅子のアルコール消毒を徹底させる。

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
生徒会指導部	北斗祭体育の部では、生徒会役員と、執行委員が協力して企画運営を行った。	■北斗祭等の学校行事において、生徒がより主体的に考え活動出来る場面を増やす。	■代議員会、執行委員会等の会議を通して、多くの生徒の意見を反映できるような企画を立案させる。 ■各行事の役割分担を明確にすることで、生徒各自に行事を牽引する責任感を持たせる。	■北斗祭体育の部では、企画立案から運営まで生徒主体で出来るよう、執行部で企画、執行委員会で立案、代議員会で討議・決定の手順をふむよう意識させ、ある程度は実行出来た。 中高生徒会長・副会長は、自分たちの役割を責任を持ってやり遂げた。	A	■執行委員会・代議員会は、放課後の開催が難しい面があり、昼休憩に行っていたが、15分程度の時間しかとれず、深い議論に至らない事が多かった。 ■会議時間がある程度とれるような計画が必要である。	■今年度は、球技大会を星魁祭と命名し生徒主体に運営を行なった。新しい種目を取り入れて盛り上がった大会となった。 また、放送部が中心となり、競技の中継放送をするなど、工夫もできた。 生徒会執行部は有志を募り、文化祭計画委員会開き、文化祭再開に向け、その企画書を作成した。	A	体育祭、星魁祭の成功、文化祭の再開をめざした企画書の作成など、生徒の中に主体性が芽生え始めている。この流れが、次年度にも継続するよう、そして、より多くの生徒が主体的に活動できるよう、各委員会の活動をはじめ、生徒の活動の場をしっかりと確保したい。
人権教育部	臨時休校の影響で予定していた講演会は中止となったが、PTA人権教育部の協力により、研修会の参加や広報誌の発行など連携しながら行った。	■PTA人権教育部と連携し、人権教育の研修会や講演会を企画・実施する。	■PTA人権教育部と人権教育部教員の役割分担を、相互に確認する。 ■PTA人権教育部の方に、関係機関が主催する研修会への参加を依頼する。	■新型コロナウイルス感染対策の観点から各行事についてPTA人権教育部と協議を重ね、10月の講演会は中止となった。「PTA人権部だより第76号」は予定通り発行した。	B	■引き続き、PTA人権教育部との連絡を密にとる。 ■研修会等の情報を迅速に提供する。	■コロナ禍でPTA主催の人権講演会は中止となったが、10月を「北斗人権月間」としポスターによる啓発活動をおこなった。「PTA人権部だより」も予定通り年2回発行することができた。	A	PTA人権教育部と連携し、人権に関する啓発活動を、様々な形で継続的におこなっている。
事務部	来訪者及び電話の対応、その他対外的にまだまだ改善出来ることがある。	■迅速かつ丁寧な言葉遣いや対応を心がける。	■慌てずに落ち着いた対応をする。 ■電話3コール対応。電話の保留時間の短縮のため適切な場所に繋ぐ。	■保留時間は短くなりつつある。しかし職員室へ繋げた後の保留が長い。	B	■普段から学校のスケジュール、教職員の動向を確認しておく。 ■	■マスク着用の来訪者及び電話の対応時に用件等が聞き取りにくい場合があったが慌てず失礼のない対応を心がけた。	B	引き続き迅速かつ丁寧な対応を心がける。
特別支援委員会	LD専門員・SC・SSWと連携をとりながら個性や特性にあわせた支援を考え、実践できるようになってきた。	■特性のある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	■指導計画に沿って個々の情報を共有する。 ■専門家から助言を受けたことを全職員で共有する。	■指導計画については、定期的に情報共有できている。	B	■職員会議後など、生徒の細かい動向を随時共有する時間を持つ。 ■LD専門員などに協力を仰ぎ、助言していただく。	■生徒の情報共有は随時できたが、職員研修会を行うことができなかった。	B	個別の指導計画はあるが、具体的な活用法や、計画の立て方などを職員が研修する場を設ける。

【教科】

国語	各自が研修会に参加し、教科内でその情報を共有することにより、共通テストと新課程の研究を行っている。	■言語活動及び思考力、判断力、表現力に重点をおいた授業実践と、新課程の研究を行う。	■模試の問題や共通テスト対応問題集を分析研究し、授業にその要素を取り入れる。 ■教科指導に関わる研修に参加し、情報を共有する。	■記述問題における表現力向上をねらいとした演習を行っている。	B	■教科会で授業実践について情報交換する。 ■各自新課程の研究に努め、教科内で共有する。	■新課程で求められている力を教科会で共有し、授業実践に繋げた。	B	新課程の研究を深め、教科指導の技術向上をはかる。
社会 地歴 公民	主権者教育に関し、模擬投票を実施できなかったという課題が残った。	■高校生に対する主権者教育を充実させる。	■現代社会の授業を中心に、政治制度に対する理解を深める。また、今年度版の「私たちが拓く日本の未来」が配布され次第、学習を進める。 ■外部機関と連携し、主権者教育を実施する。10月を目処に模擬投票ができるよう、計画を進める。	■10月の主権者教育(選挙出前授業)に向けて、準備を計画的に進めている。また、公民の授業においても、選挙制度に関する単元を中心に掘り下げて学習を行うことで、生徒は主権者としての意識を高めることができている。	B	■授業進度に合わせて、高校1年生を対象に、「私たちが拓く日本の未来」などを教材として事前・事後学習を行う。 ■鳥取県及び米子市選挙管理委員会の担当者と綿密に打ち合わせをして、内容を詰めている。	■計画通りに実施することができた。前年度実施できなかった模擬投票も実施でき、生徒が主権者としての意識を高めることができた。	A	次年度は高1で主権者教育、高2で消費者教育を実施できるよう、計画中である。ただし、外部要因(新型コロナウイルス・衆議院議員総選挙の時期)を分析しながら、慎重に立案・実施する必要がある。
数学	2021年度入試から始まる大学入学共通テストに向けて、試行問題の研究・分析をおこなった。	■大学入学共通テストおよび国公立大学2次試験への対策を十分におこない、得点力を身に付けさせる。	■共通テストで出題が予想される対話形式の問題や実生活への利用の問題については重点的に演習していく。 ■複数の解法について問われる問題も出題が予想されるので、授業でも別解を紹介したり生徒に考えさせたりする。	■高校3年の授業では、解答の過程だけでなく問題を解くための方針についても答えさせながら、まだ新出の会話等長文をとまなう問題の対策が十分であるとはいえない。	C	■マーク問題の練習を重ねるとともに、長文問題への対応も徹底し、共通テストに向けての実戦力を高める。 ■別解研究が共通テストだけでなく、国公立大学2次試験にもつながるように指導していく。	■高校3年の授業では共通テストの出題傾向を鑑みて問題演習をかさねていった。共通テスト後は国公立大学2次試験に向けて個別指導をおこなった。	B	高校3年については共通テスト対策だけでなく、国公立大学2次試験に向けての思考力も身に付けさせる。

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
理科	実験など授業の状況によっては、活発な意見交換を実施することができた。また、ICTを活用しての授業もある程度実施することができた。	■中学生は自分でテーマを決めて課題研究に取り組む姿勢を育てる。	■長期休業中にICT(タブレット等)を使って、生物分野の身近な植物、動物の写真や動画を集め、集約して発表させる。 ■グループ活動を通して、お互いの考えを発表し、生徒同士で評価させる。	■夏季休業中の課題の1つとして、身近なものを題材とした写真を撮り、moodle(学校のクラウド)に保存をさせた。そのデータを授業でも使用した。	B	■ICTを利用して課題研究ができるように題材や目標を設定させていく。 ■今後は普通の授業にもより多くICTを利用した展開をしていく。	■自分でテーマを決めて課題研究に取り組むことはできなかったが、長期休暇中にmoodleなどを使って、課題に取り組みせ、研究の資料を集めた。	C	SDGsと絡めて、課題研究に取り組む。
英語	ALTとの授業、パフォーマンステストを行うなど、英語コミュニケーションの意欲を喚起する。	■生徒の英語コミュニケーション能力を高める。	■ALTと協力してパフォーマンステストを実施し、生徒の英語運用力を高める工夫をする。 ■英検の積極的受検を促進及び対策、GTECの対策を行い、英語を話す力の向上を図る。	■パフォーマンステストは各学年随時実施している。実施の時期、頻度は見直す必要がある。英語民間試験対策も授業内外で行い、英語を話す力の向上に努めた。	B	■パフォーマンステストは引き続き、英語科全体で連携、情報共有を行い、実施する。 ■引き続き、英語民間試験対策を授業内外で実施する。	■パフォーマンステスト実施及び事前事後指導、英検・GTECの対策を通して、生徒の英語で意見を伝えようとする意欲を高められた。	B	パフォーマンステストの実施時期や頻度についての見直しをする。
保健体育	安全に留意した体育の授業を進めることができていた。また、運動が得意でない生徒も積極的に授業参加ができるようになってきた。	■授業の中で生徒自らが考える主体的な活動を増やし、思考力・判断力を養う。	■グループ活動を多く取り入れ、課題を見つけ、話し合い、解決する能力を高める授業展開をする。 ■ダンスの授業において、グループで企画、練習などを行い、発表する場を設ける。	■全学年において、バレーボールのグループ活動の授業を導入した。試合形式の授業では、進行や運営を主体的に取り組みさせることができた。しかし、話し合う時間はもう少し多めに取ればよかった。	B	■様々な種目に合わせて、主体的に取り組むことができるように、話し合う時間を設定する。 ■ダンスの授業において、グループで企画、練習などを行い発表する場を設ける。	■体育活動の中で、自分たちでゲームの審判や進行、得点係などを割り当て、主体的に取り組むことができた。保健分野においても生徒主導の授業展開ができ、今までの授業とは異なる能動的な学習ができた。	A	生徒の主体性を育てるためには、教員が我慢しなければならぬ。たくさんの指示を出すのではなく、生徒に考えさせる時間を取ってやることで思考力や判断力を育てていきたい。また、男女共習授業を推進していく。
技術家庭科	日常生活において、ものづくり、衣・食・住などに関する体験に乏しい。	■学習活動や実習で得られた知識や体験を日常生活に生かしていけるようにする。	■プレゼン発表や調理実習をグループで実施し、方法、理由を考えさせる機会を設ける。	■プレゼン発表や調理実習、エコバック作成、野菜の育成観察を通して、理由を述べながら自分の意見を説明することができた。	A	■より深い学びになるように、事象の説明、自分の意見やその理由を述べる機会を設ける。 ■	■学年でのプレゼン発表やレポート提出による新たな課題に取り組むことができた。	A	学習活動や実習で得たことを生活体験の中で活かしていけるよう指導したい。
情報	ICTを活用して自分の意見等を伝える技術を十分取得していない。	■目的に応じて適切に取得した情報を、相手に伝えるようプレゼンできるようにする。	■プレゼンを通し、情報の収集・判断・表現・処理・創造・発信・伝達という流れを体験させる。 ■機器の基本的な操作技術を習得する。	■iPadのkeynoteを用いて個人で自分の進路に関するプレゼンテーションを実施した。ただし、機器の基本的な操作技術については生徒によってばらつきがあった。	B	■個人活動ではなく、グループ活動としてプレゼンを実施する。 ■情報機器や専門的なアプリケーションに触れる機会を増やす。	■iPadのkeynoteを用いてグループでのプレゼンを行った。生徒同士の教え合いによって、電子機器が不得意な生徒も意欲的に取り組むことができた。	A	プログラミング教育の必修化に対応するとともに、共通テストにおける「情報」新設に向けて情報収集および準備しておく必要がある。
音楽	ほとんどの生徒があらゆる演奏の場面において、主体的に音楽を表現するということができなかった。	■音楽の様々な側面を知覚し、曲に対する自分なりの考えを持ち、それを音や音楽によって伝えることができるようになる。	■様々な国・年代・ジャンルの音楽を鑑賞し、その音楽についての理解を深める。 ■歌唱の際、その曲に対する自分なりの考えや表現法を各生徒にプレゼンテーションさせる。	■生徒が音楽で表現をする際の一番の方法は「声での表現」だが、現状では人前で歌うことができないので、表現の幅も狭まってしまっている。	C	■創作など、演奏以外の表現活動を行う。 ■音楽のプレゼンテーションを行う。	■歌唱や演奏がほぼ出来ないため、「好きな音楽のプレゼンテーション」・「好きな音楽で自由に表現」などを行ったが、やはり十分に音楽表現をすることが出来なかった。	C	今後も、歌唱や楽器の共有が難しい状況が続くことが予想されるため、演奏以外でどのように表現活動を展開するか検討する。
美術	個々の題材については、学習内容を深めることができたし、題材間のつながりまで吟味し、再構築していくことがある程度出来た。	■題材間のつながりまで吟味し、ある程度再構築出来た学習内容を考察しながら授業を実践してみる。	■ある程度再構築出来た学習内容を再度考察していく。 ■再考察した学習内容で授業展開してみる。	■再構築した学習内容を考察しながら授業実践が出来たかという点、あまり出来ていない。	C	■学習内容の再考察をしていく。 ■再考察した学習内容で授業展開を実践していく。	■題材間のつながりまで吟味し再構築した学習内容を考察しながら授業実践がある程度できた。	B	更に授業実践を深めていく。

【学年】

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
高校3年	志望校へ向けた学習への取り組み具合が様々である。	■第1志望進路を目指した最大限の努力と、真摯な学習活動を継続させる。	■目標値を自覚させ、そのためにどのような努力をするべきかを明記させた上で、定期的に振り返りをさせる。 ■模試結果から補習分野を確認し、個人面談を通して自主学習の時間を持つよう指導する。	■殆どの生徒が第1志望進路を定め、それぞれが合格に向けた課題に取り組んでいる。	B	■個人面談を通して現状を客観的に捉えさせ、合格までの学習活動のプランを立てるよう指導する。 ■模試受験後の振り返りによって自身の課題を明確にし、粘り強く取り組むよう指導する。	■各生徒が自身の希望進路に向けて最後まで真摯に取り組むことができた。	A	次年度受験に向かう生徒の状況把握に努める。
高校2年	志望進路を定め、それにむけて探究する力が弱い。	■探究学習によって課題発見及び課題解決に繋がる力を身につける	■探究学習の各場面でのような力を身につけるか(目標)を明確にした上で活動させ、定期的に自己評価させる。 ■積極的に情報収集を行うことを指導し、その活用につなげる。	■冊子『課題探究メソッド』を使い、課題探究の概要の学習を行った。PCを通じた情報収集力は向上しつつあるが、人を通じた情報収集力はまだまだ不十分である。	C	■今後はテーマ決定を行い、個人探究へ入っていく。 ■	■進路探究の学内発表会を実施した。プレゼン力は向上したように思うが、課題発見及び課題解決に繋がる力は不十分である。	C	課題を発見すること、その解決にむけて考えを深める。課題を設定することに時間をかける。
高校1年	探究学習の態度は身につけてきている。	■探究学習を通して進路選択をさせる。(適切な文理選択を行う)	■進路探究に結びつけるため、自分たちで調べる力を身につけさせる。(LHR、面談、ゲストティーチャー等) ■興味のある大学の資料を取り寄せる。可能ならば大学見学、オープンキャンパスへの参加を促す。	■文理選択を決定している生徒が多くなってきている。探究学習を通しての進路選択は継続中である。	B	■調べる力をつけるためにHRや面談を活用していく。 ■今年度はオープンキャンパスへの参加は厳しいので大学について調べさせ、資料を取り寄せる。	■探究学習では自分の進路に結びつける内容を調べさせ発表させた。職業・大学・学部を決めている生徒の割合も多くなった。	B	探究学習を通して調べる力、課題解決方法など生徒たちの成長を感じている。来年度にも繋げていきたい。
中学3年	大山宿泊研修及び探究学習成果発表会において、企業や事業所の課題解決につながるアイデアを具体的に提示することができた。	■探究学習を通して、異文化理解を深めるとともに将来の進路決定につなげる。	■事前学習において、各班でテーマを設定し、ある程度の完成イメージと行動計画を立て、現地でのフィールドワークにつなげられるようにする(海外研修)。 ■課題研究メソッドを活用し、テーマ設定、仮説の設定、調査・実験の実施を計画的に進める(個人探究)。	■個人探究を中心に、将来を見据えた研究テーマを設定し、計画的に実施している。加えて、ビブリオバトルなど新たな試みにも取り組んでいる。	B	■海外研修に向けた学習として、例えば社会科の授業で異文化理解につながる歴史・文化学習を行うなど、次年度にむけた意識付けを継続していく。 ■個人探究に関しては卒業論文作成も視野にいれながら、今後も計画的に進めていく。	■個人探究のテーマ設定を行う中で、生徒自身が将来の進路決定について深く考え、具体化することができた。また、異文化理解に関しては、本来、海外研修で訪れる予定であった台湾に関する歴史・文化学習を強化するなど、フォローを行った。	A	次年度は、SDGsとアントナプレナーシップの育成を軸とした探究学習を通して、これまで以上に自分で考え判断し行動できる自律した生徒を育てていくことが重要である。
中学2年	探究学習を通じて、地域の課題について調べ、発表をすることができた。今後は、より主体的に学習に取り組んでいきたい。	■探究学習によって、地域について深く考察し、課題解決に向け、主体的に行動しようとする意欲・態度を身につけさせる。	■フィールドワークや職場体験を実施することで、地域の問題を自分自身の問題として捉えさせる。 ■プレゼンの資料作成や発表に取り組むことで、自分達の学習成果をまとめ、発信する力を身につけさせる。	■「衣服」をテーマに、社会・地域でおこっている問題について、SDGsの視点から学ぶことができた。SDGsについて、生徒によって理解度にばらつきがあることが課題である。	B	■冊子『課題研究メソッド』などを活用しながら学習を進めていく。 ■様々な教科でSDGsとの関連を意識した授業を展開するなどして、理解の促進をはかっている。	■以下の学習活動を通じて、地域の課題について学ぶとともに、課題解決にむけた実践的な取り組みを行うことができた。 ・SDGsに取り組む地域の企業の方々を招いての講演会 ・服のチャラプロジェクト(古着回収)への参加 ・冊子『課題研究メソッド』の活用 プレゼンテーション後の自己・他己評価などを通して、自分の考えを表現するスキルを高めることができた。	B	情報の収集・整理・分析・活用能力を高め、課題解決に向けた論理的思考力を身につけていきたい。
中学1年		■あいさつ、時間を守る習慣を身につけさせる。	■始業・終業のあいさつは必ず椅子をしまい、姿勢を正し、学級委員長・副委員長はきちんと気をつけがきているかを確認させる。 ■教員が早めに教室へ向かい、朝礼・授業でのチャイム席を守るように指導する。5分前から朝読書を開始するように指導する。	■毎回椅子をしまい、あいさつが出来ているが、姿勢が崩れたり、授業に入る姿勢が整っていない生徒がいる。授業へは早めに着席ができていない。朝礼開始5分前からの読書が出来ていない。	B	■授業開始のあいさつは集中して授業に入る為の姿勢を作っていくためであること再度確認をし、指導を続ける。 ■教員は早めに教室に行くことを心がけ、また、生徒同士が声を掛け合うよう促す。	■朝礼開始5分前からの読書は促さなくてもできるようになってきた。その他の時間も自主的に守れるようになってきた。あいさつの姿勢は徐々に良くなってきているが、まだ全員がさわやかなあいさつというところまでには至っていない。	B	授業開始の挨拶を通して緊張感を持って授業に向かい、集中して学習に取り組もうとする態度を育てる。